

家畜改良増殖目標見直しの検討状況

資料8

畜種別研究会	乳用牛	肉用牛	豚	鶏	馬	めん山羊	
第1回	検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めぐる情勢</li> <li>・フリーディスカッション</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・めぐる情勢</li> <li>・素案の検討</li> <li>・フリーディスカッション</li> </ul>	
	開催日	6月24日	6月19日	7月10日予定	7月7日予定	7月27日予定	8月5日予定
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳量を伸ばすことは重要であるが、目標値の設定方法は検討する必要。</li> <li>・繁殖性も良く、長持ちする牛づくりが重要。</li> <li>・泌乳持続性は新たな指標として有望。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖性向上、事故率低減、増体向上など生産性向上の方向へ大幅に変えていく必要。</li> <li>・新たな指標として、①4歳時産子数、②余剰飼料摂取量、③おいしさについての検討。</li> <li>・遺伝的多様性が失われつつあるので、その確保が必要。</li> </ul>				
第2回	検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論点整理</li> <li>・目標骨子案提出</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨子案の取りまとめ</li> </ul>	
	開催日	9月予定	9月予定	9月予定	9月予定	11月予定	11月予定
	主な意見						
第3回	検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨子案のとりまとめ</li> </ul>					
	開催日	11月予定	11月予定	11月予定	11月予定		
	主な意見						

第9次家畜改良増殖目標 第1回畜種別研究会(乳用牛)(主な意見)

1 乳量目標

- ・牛群検定農家では既に27年度目標を大幅に上回る水準に達しており、目標値の設定方法について検討する必要。
- ・乳量を伸ばしていくことは重要。
- ・穀物に頼らず、粗飼料中心でも乳量を稼げる改良が必要。
- ・泌乳持続性は新たな指標として有望。
- ・飼養環境効果の差が、農家毎の技術差なのか、給餌方法の違いなのか、牛舎形態の違いなのか、搾乳方法の違いなのか等の分析が必要。
- ・将来的にどれくらいまで乳量を伸ばせるかを踏まえておく必要。

2 生産性向上

- ・繁殖性がよく、疾病にも強い改良が必要。
- ・長命連産性のある、長持ちする牛への改良が必要。
- ・酪農家が減少する中、新規参入者でも飼いやすい乳用牛づくりという視点も必要。

3 生産者・消費者ニーズへの対応

- ・家畜の改良は長期間を要するため、大きなトレンドとして消費者ニーズを把握して改良方向を定めることが重要。
- ・生産者の乳用牛に対するニーズは多様化していることから、乳量、体型など、特徴のある牛づくりが必要。

4 改良・検定手法

- ・SNP(一塩基多型)遺伝子解析技術を活用した乳用牛改良の取組が欧米において開始され、改良の精度向上・効率化が図られる中、日本においても、SNP技術を活用した乳用牛改良の実用化を積極的に推進すべき。

第9次家畜改良増殖目標 第1回畜種別研究会(肉用牛)(主な意見)

1 生産性向上

(1) 肥育期間と脂肪交雑

- ・出荷月齢を短くすることが重要。その上で、早期に脂肪交雑の入る牛を作り、脂肪交雑の現状を維持できれば理想的。
- ・エネルギーの高い脂肪より赤肉を増やす方向を目指すべき(飼料効率向上にもつながる)。

(2) 飼料効率・増体

- ・早く大きく仕上がるような牛を作るべき。ただし、増体に改良の重点を置くと雌牛が大きくなり、飼料代がかかると、繁殖成績が悪くなる、という報告もある。
- ・牛が摂取した飼料のうち、排泄されるエネルギー量を可能な限り減らしていくという「余剰飼料摂取量」の概念は検討に値する。

(3) 繁殖性

- ・受胎率低下の原因をよく分析すべき。
- ・「4歳時産子数」は、繁殖性を総合した表形値だが検討に値する。

(4) その他

- ・放牧適性の指標化は難しいが、放牧の推進は行政・研究・現場一体で取り組むべき。

2 遺伝的多様性

- ・肉質重視から、偏った系統に利用が進んでおり、遺伝的多様性が失われつつあるので、その確保が必要。

3 おいしさの評価

- ・現在の科学的知見を充分整理してから、改良指標を検討すべき。
- ・普通の人が食べておいしいと感じる肉質基準を作るべき。
- ・おいしさ、安全性、生産情報など、供給側の発信するテーマを多様化し、消費者に理解され消費されるという形を目指すべき。